

今後の日本製機械、部品の 市場参入の可能性、見通し

JETRO中小企業セミナー

Japan Tool Service Ltd

取締役社長 岩本 茂

平成22年3月18日(長岡市)

最近の市場の推移について

- 金融危機を経験したロシアは自国での物づくりに取り組もうという風潮がようやく芽生え始めているといえると思われる。
- ここ数年日本の機械、部品に対する評価は“品質は良いけれど、どうせ高い”というワンパターンのものであったが、“品質の割りには価格はリーズナブルなものもある”という認識に変わりつつあり、今後はより肌理の細かいPR、宣伝をすることが効を奏するのではないかと思われる。

日本製の機械類のロシア市場への参入の可能性

- 本年1月スタートしたロシア、ベロルーシ、カザフの関税同盟の推移は消費物資関係のロシアへの輸入がむしろ難しくなりつつあるとの観測もある。
- このような中、自国にてより高品質の製品を製造しようという話は増えており、設備導入にあたっては慎重ながら、積極的な検討が始まりつつあると言える。

日本の機械製品に対する期待

- 日本の機械類が価格的には多少高いが、品質、耐久性に優れている。
- 更に高品質の製品の製造に関わった実績も多く製造機械を導入した場合、この経験を共有できる期待値も高い。
- サービス、メンテ及びアフターケアの指導をしっかりとやることにより、ディーラー、ユーザーの満足度は大きくなるものと思われる。

各分野の見通し、可能性について

- 自動車、電動工具等はロシアではすでに多くの日本製品が普及しており、成熟したマーケットであるといえる。
- 医療器械分野は西欧のメーカーも含め、マーケット規模に加え実需が飽和状態となっており、日本としてどのように売り込むべきかが検討されるべきであるという意見もあるようです
- 工作機械、木工機械、各種計測機械類はまだまだ売り込める可能性があると思います。(良いディーラーを見つけ、地道なPRをすることが必要ですが。)

- ご静聴ありがとうございました。